

人文学部 外部評価

津高等学校

校長 水越 利幸

今回、三重大学人文学部の「外部評価」に参加させていただき、貴重な体験をいたしました。今後、高等学校の運営に生かしていきたいと思っております。以下数点について、私の感想と意見を述べさせていただきます。

○ 三重大学人文学部のビジョンについて

三重大学のビジョンとしては「感じる力」「考える力」「生きる力」がみなぎり、地域に根ざすこと、また国際的に活躍できる人材の育成を目標としており、その基盤となる「コミュニケーション力」を培い、問題発見力、課題探求心、論理的思考力、実践的問題解決能力を身につけて社会に貢献するとありますが、これらを客観的に検証することが今後の大きな課題となってくるものと思っております。人文学部として、どのように対処されるのか期待しています。

○ 人文学部の学科と学習内容について

人文学部は人間が作り出してきた文化や社会をより広く深く理解するための知的探求を行うこととし、文化学科と社会科学学科の二学科で構成されています。

文化学科では、地域文化、言語文化、環境文化の各専修に4領域（日本、アジア・オセアニア、ヨーロッパ・地中海、アメリカ）の研究を選択学習することになっていて、多くの学習メニューを用意され、豊富な学習内容に対して評価いたします。

社会科学学科では、法政コースと現代経済コースの2コースに分割され、法政コースには、統治システム履修プログラム、生活法システム履修プログラム。現代経済コースには、企業経営履修プログラム、地域経済履修プログラムが設置されていますが、法律だけ、経済だけというのではなく、多様な学問分野を学べることになっています。学生がそれらを自主的に選択し、効果的に学習するためには、教富のきめ細かい指導が当然不可欠となってまいります。このような新しいカリキュラムが2005年からスタートしたとのことですので、まず学生に真に理解させ、うまく作用するような指導として「オリエンテーションセミナー」が活用されているものと思っております。この社会科学学科の理念は大変すばらしいと考えられますが、中途半端になりはしないかとの心配もあります。現代のモラトリアム化している若者にとって、自分のやりたいことをじっくり考えさせ、進路を選ばせることについては賛同いたします。

なお、授業内容について、今日のアジア諸国との国際化の進展に伴って、明治以降の日本の歴史をきちんと教授願いたいと思っております。

○ 学科の特性と入試について

入試において、人文学部の二学科が同じアドミッションポリシーであることに若干の違和感を持ちます。社会科学の法政コースと現代経済コースでは文型でも、理系でも受験できるという強みもあるわけですが、かえってこのことが、高校生にとって、戸惑うことになって、受験者数の落ち込みにつながっているのではないかと考えられます。

このことから、三学科構成にしてはと考えます。たとえば、文化学科、法政学科、経済学科の3つです。これならば、各学科の授業内容、それにともなっている進路方向が明

確になると考えます。入試方法にしてもそれらの学科特性に応じた生徒を募集することができるのではないかと考えます。

○ 学校・地域との連携について

出前授業、高大連携サマーセミナー、公開ゼミが実施されていることは、大いに評価いたします。高大連携では県内高校生が三重大大学の各学部のキャンパスでの講座を体験することは当大学の魅力と関心を一層高めることになると思います。生徒たちが高校とは違った雰囲気を感じ取ることは、ひいては志願者の増加につながるものと思います。高等学校協会と密接な連携を図り、この事業の拡大を望みます。この講座が大学入学後の単位として認めていくことへの可能性についても検討されることを望みます。

出前授業については、高等学校の要望を受けて実施されているものと思われます。これもできる限り続けていただければと思いますが、高大連携サマーセミナーに暫時移行してもいいのではと考えます。

○ FD活動について

FD研究会が毎月開催されていることや、学生あるいは教員の「授業に関するアンケート」の分析をして、よりよい授業の展開を研究されていることは、高校としても大いに参考にしたいものと思います。現在、県立高校も他校の教師も含めた授業見学や意見交換の機会が多くなってきていますが、大学の教官が互い授業参観され授業研究を検討されていることに敬意を払います。

また、FD活動を通して「キャリア教育」を取り入れる方法を検討され、学生個々人の将来の展望を早い時点で図られるのは意義あるものと思います。

三重大大学の学生の気質として、おとなしく優秀な学生とのイメージを持っていますが、やや元気さや積極性に乏しいとも感じています。今後、大学の授業評価ばかりでなく、社会人としての「心がけ」などを話し合う機会を持ち、力強く・情熱ある人物の育成を図っていただきたいと思います。また、保護者と大学側との懇談会をするなどして、意見などを取り入れてもいいのではと考えます。そして、学部の良さと強みを十分にPRしていただくことによって、より人文学部の認識が高められるものと思います。

○ その他

志願者をいかに増加させるかについては、基本的に人文学部の教育内容を明確にされ、各高校に対して進路説明をきめ細かくする以外にないと思います。「人文学部のそこが知りたい」の冊子を高校に配っておられると思いますが、もっと見やすく見栄えをよくするなどの工夫も必要です。また、学部内の美化運動やあいさつなど学生のマナーの意識を高めることも大切だと考えます。なお、部活動は学生自治が主体となっているものと思われますが、大学として部活動にどのように対応するのも検討する必要があると考えます。

人文学部のことをきちんと把握しているわけではありませんのに、勝手なことを申し上げ、失礼いたしました。今後、三重大大学人文学部がますます発展されることをご期待して報告とさせていただきます。

上記評価に対する学部としての見解

三重県立津高等学校長水越先生には、大学のビジョンや学科・学習内容、入試、高大連携、FD活動、さらには学内美化運動や学生の積極性、マナー、クラブ活動といった幅広い観点からのご意見、ご提言を頂戴しました。そのうち我々は特に、教育内容の明確化というポイントを重く受け止めています。現在も、学部の看板をみただけでは何をする学部であるのかわかりにくいといろいろな方々より指摘されており、この課題については、教員や事務職員も学部を挙げて広報活動に力を注いできているところです。また、社会科学科では昨年度よりカリキュラムを改革しましたが、それと並んで、文化学科でも教育体制を再編成する方向ですでに話し合いに入っています。その目指すところは、まさに、受験生や保護者の方々に、何を学ぶ学部・学科であるのか、もっと分かりやすいものにしていくということです。さらに我々は、学生が初年度教育から専門教育への橋渡しにも意を注いだこれらのカリキュラムの下で、今以上に自分の方向性に沿って自覚的に学問を追究し、自らのキャリア展望をしっかりと見据えて、これからの地域社会を担う社会人としても育っていくことを期待しています。